

平成 31 年 3 月 7 日

## 2019 年度における食品安全をテーマとしたリスクコミュニケーション等の取組について

消費者庁では、各地域の地方自治体、消費者団体、事業者団体等が、食品安全に関する講演会、説明会等のリスクコミュニケーションを主体的に実施する場合、消費者庁でその実施を支援しております。その具体的な支援内容をとりまとめ、通知しましたので、お知らせいたします。

2019 年度のリスクコミュニケーション等の開催を計画する際には、当庁の連携の可能性について、ご検討いただきますよう、お願いいたします。

本件に関する問合せ先  
消費者庁消費者安全課 食品安全班  
TEL : 03(3507)9280  
FAX : 03(3507)9290  
URL: <https://www.caa.go.jp/>  
Mail : [g.anzenshoku@caa.go.jp](mailto:g.anzenshoku@caa.go.jp)

(写)

消 安 全 第 8 8 号

平 成 3 1 年 3 月 1 日

各都道府県・政令指定都市

消費者行政担当課長 殿

消費者庁消費者安全課長

2019年度における食品安全をテーマとしたリスクコミュニケーション等の  
取組について(お知らせとお願い)

各地方公共団体におかれましては、日ごろより食品に関する消費者の安全・安心の確保のため、積極的な取組を進めておられますことに心から感謝申し上げます。

近年、国際化の進展、食品流通の広域化やソーシャルメディアの普及などが進む中、食品の安全を脅かす事案の発生や根拠のない情報による消費者の混乱が生じています。このような状況の下、消費者は正確な情報を得て食品に係るリスクの現状を理解し、自らの判断で主体的な消費行動を行うことが求められることから、食品安全に関するリスクコミュニケーションをより一層推進する必要があります。

消費者庁は、食品安全基本法に基づき、リスクコミュニケーション全体に係る総合的マネジメントの役割を担っており、2019年度も引き続き、地方公共団体等が行うリスクコミュニケーション、リスクコミュニケーター研修を支援するため、別紙1の協力・支援を行うこととしています(詳細は別紙2参照)。

各御担当におかれましては、2019年度のリスクコミュニケーション等の開催を計画する際には、当庁との連携の可能性について御検討いただき、ご希望等がある場合には後述の問い合わせ先までご相談願います。また、地方公共団体におかれましては、食品安全に関するリスクコミュニケーションを担当する部局等が別にある場合には、本通知の回付をよろしく願います。

## 1. 当庁の協力・支援の対象

- (1) 一般消費者を対象とする食品安全に関する情報提供・意見交換会等
- (2) 消費生活相談員や教職員等、行政職員を対象とする食品安全に関する研修等
- (3) 多くの参加者の来場が見込める各地方公共団体が開催する既存のイベント等におけるリスクコミュニケーション
- (4) 事業者が地方公共団体等と連携して実施する消費者向け工場見学等
- (5) 消費者に対して食品の安全性を説明する必要がある者(行政職員、団体職員、食品関連事業者職員等)を対象として行うリスクコミュニケーター養成研修等

## 2. 2019 年度における消費者庁の主な協力・支援内容

	当庁と共催の場合	当庁と共催でない場合
講師	外部講師の紹介に加え、講師への旅費及び諸謝金を、当庁の内規に従い一部又は全部負担(当庁の職員の派遣も可能)	外部講師紹介 (当庁職員の派遣も可能)
会場借料	一部(又は全部)の負担が可能 (上記(1) iii のイベント開催及び出展に係る費用を除く)	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換会開催やリスクコミュニケーター養成に係る運営マニュアル等の提供</li> <li>・テーマが「食品中の放射性物質」の場合には、「食品と放射能Q&amp;A」の配布等、「健康食品」の場合には、「健康食品Q&amp;A」の配布等</li> <li>・「効果的なリスクコミュニケーションの取組紹介・プランニング支援等(別添参照)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換会開催やリスクコミュニケーター養成研修に係る運営マニュアル等の提供</li> <li>・テーマが「食品中の放射性物質」の場合には、「食品と放射能Q&amp;A」の提供等</li> <li>「健康食品」の場合には、「健康食品Q&amp;A」の提供等</li> </ul>

### 3. 備考

- (1) 旅費及び諸謝金は、「2019年度諸謝金の使用基準(各府省申し合わせ事項)」に従い算出した金額となります。
- (2) 共催の場合の講師の人選は、当庁と協議をお願いします。
- (3) 当日の議題によっては、当庁の職員が講師を務めることもできます。
- (4) 共催の相手方に対しては、金銭以外の応分の負担(例:会場手配、参加者募集事務、当日の運営等)をお願いする予定です。
- (5) 運営マニュアル等とは、意見交換会開催時に必要となる進行シナリオ、会場レイアウト、運営担当表等のことですので、参考としてください。
- (6) 頂いたご相談内容やテーマによっては、消費者行政新未来創造オフィスで検討・実証した効果的リスクコミュニケーションの手法等を当庁から提案させていただく場合があります。
- (7) 開催日まで十分な時間が確保されない等の理由で、御希望に添えない場合も想定されます。御希望の日時等については、余裕を持って御相談願います。
- (8) 平成30年度における支援は、予算の範囲内で対応可能でしたが、毎年度当該事業は予算がなくなり次第終了となるものです。当庁では、ご相談順に対応しています。相談途中での実施取りやめも可能ですので、前広にご相談をお願いいたします。

本件に関する問い合わせ先

消費者庁 消費者安全課 食品安全班

TEL : 03(3507)9280(直通)

Mail to : [g.anzenshoku@caa.go.jp](mailto:g.anzenshoku@caa.go.jp)

## ○ 消費者庁が行うリスクコミュニケーションの支援概要

**対象者** : 地方公共団体や消費者団体、事業者等※

**対象事業**: (1) 食品安全に関する情報提供・意見交換会

(2) 食品安全に関する職員等の研修会

(3) 既存のイベント等への出展

(4) 工場見学等の機会を活用した情報提供・意見交換会

(5) 消費者に食品安全を説明する者の養成研修 等

### 支援内容




※事業者は地方公共団体や事業者団体、消費者団体等との共催が必要です

	当庁と共催の場合	当庁と共催でない場合
講師	講師の紹介と旅費及び謝金(当庁職員の派遣も可)	外部講師紹介 (当庁職員の派遣も可)
会場借料	一部(又は全部)の負担が可能	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考となる運営マニュアル</li> <li>・「食品と放射能Q&amp;A」、「健康食品Q&amp;A」の配布</li> <li>・効果的リスコミの取組紹介、プランニング支援※※</li> <li>・事前準備のアドバイス※※ 等</li> </ul>	

※※は共催の場合に限ります

# ○ リスクコミュニケーションの開催形式、発生する作業内容等

開催地の意向や地域差、ニーズに応じたリスクコミュニケーションを実施します。この他の形式についてもご相談ください。

開催形式の例		シンポジウム形式	教室形式	小人数形式
開催概要	開催イメージ			
	規模	100～200人程度	50～100人程度	25人以下
	参加対象	一般消費者を中心に広く募集	・一般消費者 ・消費者への波及効果が高い層（消費生活相談員、地方公共団体が有するモニター等、職員・関係者等）など	・一般消費者 ・消費者への波及効果が高い層（消費生活相談員、地方公共団体が有するモニター等、職員・関係者等）など
発生する作業内容等	開催の内容	有識者、専門家、行政担当者、消費者等がそれぞれの視点から報告を行い、現状や課題について意見交換・質疑応答を行う。	シンポジウム形式の内容をやや小人数で行い、参加者の関心事項に応じて意見交換・質疑応答を行う。	有識者、行政担当者等が参加者と同じテーブルに付き、参加者全員の発言が可能となるような意見交換を行う。
	参加者の募集	・地方公共団体HPへの開催案内掲載 ・関係団体への周知 ・開催案内の配布 など	・地方公共団体HPへの開催案内掲載 ・関係団体への周知 ・開催案内の配布 など	・地方公共団体HPへの開催案内掲載 ・関係団体への周知 ・開催案内の配布 など
	当日の会場運営	地方公共団体から1～2名	地方公共団体から1～2名	地方公共団体から1名
	その他	講演いただく有識者、パネルディスカッションに登壇するパネリスト、コーディネーター等の候補紹介	講演いただく有識者、パネルディスカッションに登壇するパネリスト、コーディネーター等の候補紹介	参加いただく有識者、コーディネーター等の候補紹介

# ○ 消費者庁が平成30年度に共催した意見交換会等のテーマ等(例)

・食品中の放射性物質に関する意見交換会等については下記URL参照

[https://www.caa.go.jp/disaster/earthquake/understanding\\_food\\_and\\_radiation/r\\_commu/](https://www.caa.go.jp/disaster/earthquake/understanding_food_and_radiation/r_commu/)

・その他の食品安全に関するテーマの意見交換会等については、下表及び下記URL参照

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/food\\_safety/index.html#risk\\_communication](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/index.html#risk_communication)

開催日	共催自治体、団体	開催テーマ	開催形式 (協力内容)	参加者数
平成30年6月29日(金)～ 平成30年12月4日(火)	大津市	大津市リスクコミュニケーター 育成講座	教室形式 (長官名で終了証発行等)	21名
平成30年9月7日(金)	一般財団法人日本消費者協会	食品安全について～工場見学 と講演会	工場見学・小人数形式 (職員派遣)	11名
平成30年9月8日(土)	熊本市消費者センター	健康食品	シンポジウム形式 (講師紹介)	112名
平成30年9月22日(土)	一般社団法人 日本食品安全協 会	食の安全・安心	シンポジウム形式 (職員派遣)	50名
平成30年10月2日(火)～ 平成30年11月30日(金)	埼玉県	平成30年度 リスクコミュニ ケーター研修	教室形式 (講師紹介・職員派遣)	60名
平成30年10月8日(土)	学校法人 昭和女子大学	食品の安全・安心の取り組み	教室形式 (職員派遣)	172名
平成30年10月13日(土)	特定非営利活動法人エイチ・ イー・ビー研究機構	健康食品	教室形式 (健康食品Q&Aの提供)	237名
平成30年10月28日(日)	健康食品管理士会関東支部	健康食品	教室形式 (職員派遣)	68名
平成31年2月15日(金)	奈良市	食品添加物	シンポジウム形式 (講師紹介・職員派遣)	145名
平成31年2月20日(水)	宮城県	食品中の放射性物質	教室形式 (講師紹介・職員派遣)	45名

# ○ 提供可能な冊子等(食品中の放射性物質)

## ■ 説明の重点

- ・ 放射性物質、放射線、放射能の基礎知識
- ・ 食品中の放射性物質の基準値
- ・ モニタリング検査の概要、検査結果の動向
- ・ 食卓への影響の実態

## ■ 消費者の主な関心事項

- ・ 基準値設定の根拠
- ・ 生産現場における低減対策
- ・ 検査体制の充実
- ・ 市場に流通している食品の安全性
- ・ 汚染水漏洩問題による水産物等への影響



放射性セシウムの基準値

食品群	基準値 (Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100
乳児用食品	50

## ■ 分かりやすい情報提供のためのツール

◎必要部数をご連絡頂ければ冊子を送付します！



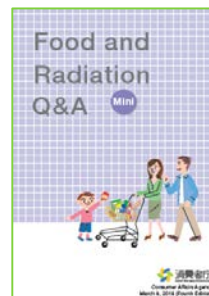
解説冊子  
「食品と放射能  
Q&A」  
23年5月～改訂第12版

リファレンス的に食品と放射性物質に係る、よくある質問32問に丁寧に答えた冊子。  
(A4判・約60ページ)



解説冊子  
「食品と放射能  
Q&Aミニ」  
27年3月～改訂第4版

「食品と放射能Q&A」の中から問いを厳選して、分かりやすい内容としたもの。  
(B5判・約15ページ)



解説冊子  
「食品と放射能  
Q&Aミニ」外国語版

改訂第4版「食品と放射能Q&A」の中国語版、英語版、韓国語版。  
(B5判・約15ページ)



# ○ 提供可能な冊子(健康食品)

## ■ 説明の重点

- ・健康食品の基礎知識
- ・健康食品と医薬品の違い
- ・健康食品の使用上の注意

## ■ 消費者の主な関心事項

- ・健康の増進
- ・体調の維持、病気の予防
- ・健康食品の効果

## ■ 分かりやすい情報提供のためのツール

◎必要部数をご連絡頂ければ冊子を送付します！



### 解説冊子 「健康食品Q&A」

Q&A形式で、健康食品を利用する際に注意するポイントをまとめたパンフレット  
(B5判・約15ページ)



### 解説冊子 「健康食品5つの問題」

Q&Aの大事な点をコンパクトにまとめ、携帯性を高めたりーフレット(A3四つ折り)

「健康食品Q & A」より

表2 健康食品手帳の例

製品名	届出の承認番号	日付(曜日)						
		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	朝							
	昼							
	夕							
	朝							
	昼							
	夕							
	朝							
	昼							
	夕							
	朝							
	昼							
	夕							
体調		調子が良い						
		変わらない						
		調子が悪い						
別付いたこと(メモ)								

「健康食品5つの問題」より

**健康食品を利用するときに確認したいポイント**

- 1 錠剤・カプセル状の製品は適量摂取になりがちです。味・香り・容積が異なった通常の食品形状の製品の方が、適量摂取になりやすいです。
- 2 広告のキャッチコピーや利用者の体験談でなく、自分自身で製品中に含まれている成分の安全性と有効性に関する情報を調べてみましょう。
- 3 友人・知人から得た情報は、その信頼性をたどって、販売業者の責任にすぎない内容ではないか、正確な情報かを確認しましょう。
- 4 製品の品質等を確認するための、製品中の個別成分の含有量、製造者や問合せ先が明記してあることを確認しましょう。
- 5 思わぬ健康被害を受けることがあるので、錠剤・カプセル状の製品を複数利用したり、医薬品的な効果を期待して利用しないようにしましょう。
- 6 自己判断での医薬品との併用は避け、不調を感じたら必ず医師・薬剤師などの専門家に相談しましょう。
- 7 高価な製品ほど効果があるとは限りません。同様の製品と比べてみましょう。

# ○ 消費者庁が行うリスクコミュニケーション

食品安全基本法第21条第1項に基づく基本的事項に定義される、「リスクコミュニケーションの事務の調整」という観点から、消費者庁では、以下のテーマ等に関するリスクコミュニケーションを実施しています。

## 放射性物質／健康食品／食品安全全般 等 （単位は回数）

主なテーマ	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度 2月末時点	テーマ別合計
食品中の放射性物質	45	175	99	99	100	100	108	131	857
牛海綿状脳症(BSE)	—	2	2	—	—	2	—	—	6
健康食品	3	—	3	2	2	2	5	8	25
輸入食品	—	3	—	—	—	1	—	—	4
農薬	—	—	—	1	2	—	—	—	3
食中毒	—	—	—	—	4	—	—	—	4
食品添加物	—	—	—	—	—	1	1	1	3
食品安全全般等※	—	—	—	—	3	3	21	25	52
年度別合計	48	180	104	102	111	109	135	165	954

※食品リスクの考え方など



# ○ 効果的なリスクコミュニケーションの取組紹介・プランニング支援

消費者庁が徳島に設置している「消費者行政新未来創造オフィス」では、多様な主体・手法によるリスクコミュニケーション等の推進方法を検討・実証し、その成果を提供。(希望地方公共団体のみ。平成30年度末取りまとめ予定。)

## ■ 効果的なリスクコミュニケーションの提案

(テーマ:健康食品を基本)

### 基本構成=「基調講演 + 公開ミニ講座」

- ・ 公開ミニ講座は、登壇者による「大喜利」を模したQ&A形式で、楽しみながら批判的思考を涵養できるプログラム

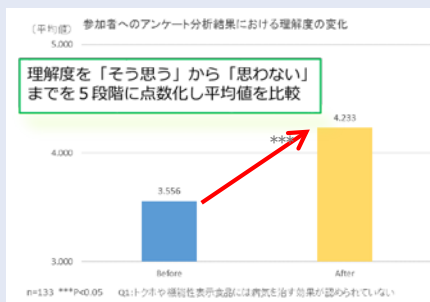
【効果的なリスクコミュニケーションの様子】

【使用スライド例】

今年度実施した、2回の新たなプログラムでのリスクミでのアンケート分析結果では、いずれも複数の側面で参加者の理解度が向上

2018/10/14

実施のリスクミ分析結果の一例



### マニュアルの提供等

- ・ 運営マニュアル、投影資料、シナリオ等を提供
- ・ 実施に向けた取組み支援(事前準備のアドバイス等)

## ■ リスクコミュニケーター養成研修の提案

### 基本構成=「目標設定 → シラバス決定 → 実施運営」

区分	食品安全全般	食品表示	HACCP等	実地見学	リスクミの実施	スピーチスキルアップ	科学リテラシー
1 食品		↕	↕	↕	↕	↕	
2 リスクとハザード				↕			
3 食が国の仕組み(リスクアナリシス)			↕				
4 食品表示		↕					
5 リスク認知特性					↕		
6 リスクミ(基本・認知)					↕	↕	
7 リスクミ(技術)						↕	↕

- 目標とする受講者の資質(素養及び知識等)の設定



- 実施科目と講師の選定



- 受講生募集から実施運営等

●食品安全リスクコミュニケーター養成・食品表示コース(消費者庁との共催)

日	午前(10:05-12:00)		午後(13:00-15:00)	
	講義名	講師	講義名	講師
1 8/28(水)	入学式・オリエンテーション(全コース共通)			
	コミュニケーション実践・リスクミ概要説明	消費者庁消費者安全課	食品安全全校の講義	東京大学名誉教授 元農畜衛生科学大学 学長 藤木英明
2 9/4(火)	食品表示の適正化に際しての取組 食品の表示制度(食品表示法)	徳島県安全衛生課	食品の表示制度(健康増進法) (食品表示法)	徳島県安全衛生課
3 9/11(火)	HACCPの取組について	消費生活研究所 戸部依子	実地見学(県内のHACCP実施工場を予定)	消費生活研究所 (NACS) 所長 戸部依子
4 9/18(火)	リスクコミュニケーションの実践	特定非営利活動法人HACCPリサーチ・センター 事務局長 土屋裕子	話す・まとめる・交渉する スピーチスキルアップのために~	四国大学短期大学部 ビジネスコミュニケーション科 教授 加藤いづみ
			※エシカル消費コースと合同	
5 9/25(火)	グループワーク 科学リテラシーについて	兵庫県教育大学大学院 教育研究科 教授 竹西亜吉 (消費者庁消費者安全課)	卒業式(リハーサルを含む)	



### マニュアルの提供等

- ・ 取組マニュアルを提供
- ・ 研修実施の支援(シラバス作成支援等)